



みんながじまんでできる学校を！

大塔っ子

佐世保市立大塔小学校

学校だより 校長 酒井元治

令和5年度 第9号 12月5日発行

始まりました「なかよしライブ」

前回の「大塔っ子」でお伝えしていました水曜日昼休みに開催する「なかよしライブ」が始まりました。第1回目のスタートは4年生の女の子2名によるキレイのダンスから。なかよし委員会の司会の子が紹介し多くの観客の前で披露します。その後もダンスや一人で歌う子、数名でコントを披露するグループ。2年生のダンス「ジャンボリミッキー」では、音楽の準備ができていなかったのですが、観客の子どもたちが手拍子しながら合唱し、その歌声をバックにダンスを披露します。なんとその時間の雰囲気が温かいことか。



先々週の2回目は体育館でのライブ。このときはエントリーしていた3年生数名が欠席していたこともあって、ちょっと時間が余りました。担当の先生が「時間があるけど飛び入りでやってみたい人はいますか？」と言うと、何人もの子どもたちが「はい、はい！」と手を挙げます。指名されたのは2年生の男の子。ピアノの披露です。いきなりの飛び入りで恥ずかしがることもなく、すばらしい演奏を披露してくれました。ダンスあり、歌あり、楽器の演奏、折り紙の披露、縄跳び、コントありと子どもたち手作りのお昼のひととき。ちょうどこのライブのとき、私がお世話になっている県立大の教授が来校されたのですが、外国語を専門とするこの先生は「アメリカの学校みたいですね。」という感想をくださいました。自分らしさを表現できる子、様々な表現をしている子を認めることのできる子、そして、そんな多様性のある学校の雰囲気、これも自慢できる学校です。基本的には第1・3の水曜日昼休み(13:20ごろから20分程度)に行っています。どうぞご覧ください。お仕事を抜けて見られるなどの時には自家用車でご来校されても構いませんが、昼休みですので走り回っている子どもたちには十分注意してください。



サポート活動も本格的になってきました

コミュニティースクールの取組として登録していただいたサポーターの皆さんの活動が本格的になってきました。

高学年では家庭科のミシン縫いの支援をしていただきました。学校でミシンを指導するときには糸が引っかかってしまうと、あちこちから「先生！先生！」という声が飛び交います。担任一人ではとてもじゃあないけど手に負えない状態になってしまうことが度々あります。そんな中サポーターのご支援はとてもありがたいものです。

また、2年生の町探検でも安全確保のために一緒に歩いていただいています。

(5年エプロンづくり)「子どもたちが素直で声をかけてくれて楽しかったです。」

(2年町探検)「お天気が良くて楽しいウォーキングでした。」 (活動後の記録より)

こちらがご支援いただいているのに、ありがたいご感想です。

褒めるという効果！

今、佐世保市の小中全ての学校で授業の中で子どもたちを褒めることに努めています。本校でも、授業の終了直前1分でも30秒でも振り返って子どもたちの学習活動を個人的に、全体的に褒めようと心掛けています。このことによって一人一人の子どもに自信を持ってほしい、学習に対する意欲を持ってほしい、そして、自分を好きになってほしいという願いからです。

学習に対する動機づけを考えると**内発的動機付け**と**外発的動機付け**があります。内発的動機付けは、自分から「もっと知りたい」「学ぶことがおもしろい」というものです。これに対し外発的動機付けは、「先生や親から褒められるからやる」「100点をとればおこづかいがもらえるからやる」あるいは、「怒られるからやる」というような他者からの関わりによるものです。

このことについて2つの実験があります。



1925年 賞罰実験 エリザベス・B・ハーロック(発達心理学者)	
子どもたちを3つのグループに分け、グループごとに表左のように対応を変えながら、算数の試験を数回受けさせました。その結果は表右です。	
A 試験のたびに褒められ続けるグループ	徐々にやる気が向上し、成績が上がる
B 試験のたびに叱られ続けるグループ	始めは叱られないよう努力したものの、その後も叱られ続けるとやる気が低下していった
C 何も言われないグループ	比較対象

もう一つの実験です。

1990年代 コロンビア大学 対象；10歳から12歳までの子どもたち約400人	
知能テストを行った後、子どもたちには実際の成績を隠し、個別に「あなたの成績は100点満点中80点」と全員に告げる。その際、子どもたちを3つのグループに分け、グループごとに成績を伝える際のコメントを変え、さらにコメントを伝えた後に、以下の2つの課題から1つを選んでもらうという実験です。	
課題1：難易度が高いが、やりがいのある課題 課題2：簡単に解け、学びの少ない課題	
結果は表右です。	
A 「本当に頭がいいんだね」	約65%が「簡単な問題」を選択
B 「努力の甲斐があったね」	約90%が「難しい問題」を選択
C 何もコメントしない	

実験者であるクラウディア・ミュラー氏と、キャロル・デュエック氏いわく、**結果や知能を褒められると、「賢く見られたい」という気持ちが生じて失敗を恐れるようになったり、「能力があるのだから自分は頑張らなくてもできるはずだ」と考えたりするようになるのだそう。**

一方、「ご褒美」という方法とやる気を調べた実験もあります。(心理学教授；マーク・レパー氏) 絵を描くのが好きな園児に「上手に描いたらご褒美をあげる」と予告し、**絵を描いた園児に実際にご褒美を与えました。**すると、園児は、その後、ご褒美がもらえない場では、**以前は抱いていた内発的動機が低下してしまったのだそうです。**同様の実験は大学生に向けても実施され、同様の結果が出ています。

まとめると

- ・叱られるより、褒められる方がやる気が長続きする。
- ・結果や知能を褒められるより、「努力」や「過程」を褒めるのが効果的である。
- ・「ご褒美」という方法では長続きしない。「ご褒美」により逆効果になることもある。



「褒められる」という外発的動機づけから、「よし、これなら自分でもやってみよう」という内発的動機付けにつながることを**エンハンシング効果**というそうです。学校でも、授業終盤は45分間のまとめを行うのでなかなか思うように褒める時間をとれないということがあっても現実です。それでも私たち教師が意識してその時間を見出したり、終盤でなく授業の途中であって褒めることを意識したりすることで、エンハンシング効果が表れるようにしていきたいものだと思います。

12月の行事

4月	月	スクールカウンセラー来校日	18月	月	スクールカウンセラー来校日
5月	火	なかよし集会(人権週間に関わる取組)	20月	水	クラブ活動(4~6) なかよしライブ
6月	水	なかよしライブ	22月	木	2学期終業式(給食なし 12時ごろ下校)
13月	水	6校時カット 集団下校	12/23(土)~1/8(月)		冬休み

1月の主な行事

9月	火	3学期始業式 集団下校(12時ごろ)	22月	月	スクールカウンセラー来校日
10月	水	6校時カット	23月	火	給食集会
15月	月	スクールカウンセラー来校日	24月	水	委員会活動(5・6)
17月	水	6校時カット	31月	水	代表委員会 大塔タイム
18月	木	佐世保市図画工作作品展(～21日)			